

## 正念場のシリア：トランプ VS 将軍たち

【訳者注】最初に、これについての読者コメントを、2つ紹介する。欺瞞に対する、このような瞬時の反応が、世界中どこでも、容易く起こるようになれば、大戦争は防げるであろう。企まれた戦争や大惨事は、我々の知識レベルや意識レベルのいかんによって、大きくコントロールできる。騙されない人々が多くなるほど、プロパガンダが命の戦争やテロは、起こらなくなるはずである。

コメント1：——「〈その上〉とヴォートルは加えた、〈我々が ISIS を敗退させたとき、我々はシリアを安定させ、その再建の面倒を見なければならない〉」  
——OK、将軍、あんたは我々にその話を買わせようというのか？ まず初めに、リビアを安定させ、その再建の面倒を見よ。そうすれば、我々はあんたを信じてよい。

コメント2：——「〈その上〉とヴォートルは加えた、〈我々が ISIS を敗退させたとき、我々はシリアを安定させ、その再建の面倒を見なければならない〉」  
——これほどのオーウェル流の言辞をあなたは聞いたことがあるか？ その一つの文章の中に、あまりにも多くのウソがある。

“ISIS を敗退させる”によって、彼は、シリア、イラン、ヒズボラ、それにロシアを、言葉通りに騙せると思っている——ISIS を武装させ、訓練し、保護して利用する、最大の努力にもかかわらず。

“シリアを安定させる”とは、リビアに対してなされたように、これを混沌状態にするという意味である。

“再建する”とは、“粉碎する”という意味である。

このような内戦（内乱）があったためしはない。アメリカとヨーロッパの従僕たちが、シリアの不安定の唯一の原因であり、初めからそうだった。

あきれた話だ！ このようなクソが流れ出す、あのヴォートルの顔の真ん中にある穴は何だ？

Patrick J. Buchanan

April 4, 2018, Information Clearing House



ISIS がシリアで敗走を始めると同時に、トランプ大統領は、今週、部隊を帰国させるという彼の約束を守るつもりだと宣言した。

「私は抜け出したい。私はわが軍を祖国に連れ戻したい」と大統領は言い、続けて「過去 17 年間に中東で費やした 7 兆ドルは何にもならなかった。…だから、今がその時期だ」と言った。

それはちょっと性急すぎる、ミスター・プレジデント。

なぜなら、トランプよ、あなたが発言している間にも、あなたは、米中央軍司令官の Joseph Votel 将軍に、反対されているのだから。「シリアではかなりの前進が見られた」と、ヴォートルは言い、「しかし難しいのは・・・我々の前にあるものだ」と彼は言った。

「その上」と、ヴォートルは付け加えた、「我々が ISIS を敗退させたとき、我々はシリアを安定させ、その再建の面倒を見なければならない。」

国務長官レックス・ティラーソンは、前からもっとはっきり言っている：——「シリアでの軍事的・外交的プレゼンスを維持することは、我々の国家防衛にとってきわめて重要だ。それはこの紛争を終わらせるためであり、いま我々は、新しい政治的未来を達成するためのコースを描いている。」

しかし、シリアの「政治的未来」はすでに描かれているのではないのか？

バシャル・アル・アサドは、イランとロシアの援助を受けて、7 年の内戦に勝利した。彼は、ダマスカス近郊の東グータの、暴徒軍の砦を取り返した。彼は今、我々やクルド人のものではないこの国の、ほとんどを支配している。

ワシントン・ポストによれば、防衛長官ジェームズ・マチスもまた、トランプの船には乗らず、「アメリカ軍は、見通しのできる将来の間、安定と、内戦の政治的解決を保証するために、シリアに駐留するだろうと、繰り返し言ってきた」。

サウジの皇太子モハンマド・ビン・サルマンもまた、テヘランから、バグダッド、ダマスカス、バイルートに通ずる“シーア派の回廊”を恐れて、トランプに反対している。「もし彼ら米軍が東シリアからいなくなれば」と、皇太子はタイム誌に話した、「そのようなチェックポイントを失う・・・アメリカ軍は、長期でなくとも、少なくとも中期間は [シリアに] 駐留すべきだ。」

ビビ・ネタニアフもまた、我々米軍がシリアにいてほしいと思っている。

水曜日、トランプは将軍たちに譲歩した。彼は、イスラム国が片付くまで、わが軍をシリアに置くことに合意した。しかし 2,000 の米軍が、今はもう ISIS と戦っていないのだから——わがクルド人同盟軍の多くは、北方へ帰ってトルコ軍に脅かされている国境の町を、防衛しようとしている——これには時間がかかる可能性がある。

しかし間違わないでいただきたい——正念場は近い。そして厳しく言えば、ここが分かれ目である。

トランプは、アルカーイダと ISIS を真の敵と見ており、カリフ国が根絶されれば、すぐにも米軍を引き上げさせる準備をしている。アサドがそのときに、ロシアとイランに支援されて、政権についていたとしても、それは構わない。

ニクソン大統領時代から存在している、アサドに支配されたシリアを、トランプは、アメリカに対する大きな脅威とは見ていない。彼は、シリア、イラン、ロシアがすでに勝利した戦争をひっくり返すために、アメリカ人の血をさらに流そうとは思っていない。また彼は、シリアの再建のために、また、我々と同盟軍が今抑えているシリアの 4 分の 1 を、長期にわたって占領するために、大金を投ずるつもりもない。

ひとたび ISIS が敗北すれば、トランプは、戦争とシリアには別れを告げるつもりだ。

しかし、イスラエル、サウジ、それに我々の対外政策エリートの大半は、猛烈に反対している。彼らはアメリカが、今、占領している、ユーフラテス川の東の、シリアの一部を固守してほしいと思っている。そして、アサド大統領を倒し、イランを追い出すために、我々の軍隊の影響力をシリアの土地で行使してほしいと思っている。

戦争党どもは、シリアを失ったとは認めない。彼らは本当の戦争は行き詰ったと見ている。が、彼らはやる気満々で、必要とあらば、数週間のように、万一、相手がユーフラテス川を越えて東岸へやってきたときには戦おうとしている。この時は、シリア軍、イラン軍、それ

にシーア派軍が相手で、アメリカは砲撃と空軍によって、ロシア人を含めて、彼らを何百人と虐殺した。

もし米軍がシリアに居続けるなら、トランプは、その前のブッシュやオバマ大統領のように、“中東の永久戦争”の罠に引き込まれる可能性が大きい。

トルコのエルドアン大統領は、シリアのクルド人からアフリーンを奪ったが、今、クルド人部隊が米軍に支援されている、マンビジへと進攻しようとしている。もしエルドアンが、威嚇から引き下がらないときには、NATO 同盟軍が出動して、撃ち合いになるかもしれない。

2,000 年には、シリアの米軍は招かれない、迷惑な客だったのだから、勝ち誇ったアサドはやがて、アメリカ部隊が、彼の土地から退くように要求する可能性がある。

我々アメリカはそのとき、アサド大統領に挑戦するつもりだろうか？ そして米軍飛行機や地上軍は、シリア軍、ロシア軍、イラン軍、それにシーア派軍と、我々のいる権利のない土地で、交戦するつもりだろうか？

トランプは、孤立主義者だとして弾劾されている。しかし、17 年の中東戦争から——イラク、シリア、リビア、それにイエメンから——すべての流血と失われた財宝を正当化するだけの、どんな利益を我々は手にしただろうか？

そして、我々の大きなライバルである中国は、これらのどの戦いでも戦わ**なかった**ことによって、どれだけ損をしたであろうか？

——以上